

長崎病院 倫理審査委員会議事録

1. 日時 令和7年10月7日(火) 14:00~14:40
2. 場所 長崎病院会議室
3. 出席者 6名
【院内】 副院長、小児科部長、事務部長、看護部長
【院外】 品川クリニック院長 品川 達夫
長崎県立特別支援学校校長 西山 幸代

4. 議事

【研究内容の説明】 ●申請者発言 ○委員発言

① 経口摂取不能であった重症心身障害児(者)に対して、アイスマッサージによる経口摂取再開への取り組み

申請者：2病棟看護師 磯部 真治

●本人より概要説明(別紙のとおり)

質疑応答

- 対象者は未成年者となるか。
- 未成年の患者が対象となる。
- そうであれば、保護者からの同意書が必要と思われる。同意書に保護者からの同意であることを明記すること。
- アイスマッサージとは具体的にどのような手法か。
- 家族に綿棒を購入してもらい、水に浸して冷凍庫で保管し、口唇から舌尖の方へなでるようにマッサージする。その後、舌根、口蓋、咽頭部を軽く圧迫しながらマッサージを繰り返して、本人の嚥下状態を確認する。
- 当該行為で凍傷は起こりうるか。1本で一連の行為を行うのか。
- 綿棒をくっつける時間は5秒ほどであり、持続性はない。先行研究では使用する本数は明示されておらず、1本の冷やした綿棒で行うものとして予定している。
- 嚥下造影検査(VF)の予定はあるか。
- 今後STと相談していくが、吐き出しが見られたり、飲み込む動作が難しい状況もあるため、状態を見ながら計画していく。
- 嚥下機能がどれくらいか不明とのことで、アイスマッサージをすることでどういう評価をして次の段階に進めていくか。また、プライバシーの配慮の担保について。
- 評価としては、二週間程度で評価する。アイスが溶けてから飲み込む方につながるため、そのときのむせの状態等で評価し、他の食物への移行等つなげていく。プライバシー配慮については、学会で発表予定であり、個人が特定されないよう匿名化する。

審議

○全員：承認

② リンパ浮腫患者の身体的・心理的状态とセルフケア能力の関係性の検討

申請者：看護師 藤戸 麻由

●本人より概要説明（別紙のとおり）

質疑応答

○データの収集方法について、質問紙が2つ添付されているが、リンパ浮腫の学会で認められたものになるか。

●SSS-8は患者の身体症状に着目したスケールの一つ。もう一つは文献等確認したところ医療系で使用されているもの。

○データは外来で取るのか。

●病棟でもデータを取る。高齢者が多く、付き添いが必要な患者は付き添ってデータを取るが、それがフィルターとなる懸念もあるため、入院患者には基本的には配布してチェックしてもらう予定。

○身体的、心理的に多因子であり、どれぐらいデータを集める必要があると考えるか。

●今回調査期間が1か月であり、10人～15人程度が調査対象となる予定。この数では調査の信ぴょう性に欠けると思うが、今後につながるものであれば、来年度も同様の取り組みを行い、より多くデータを取りたいと考える。

○心理的サポートによって改善されるか、という点につなげていくのか。

●心理的な部分へのアプローチなのか、身体的な部分なのかまだ分からないので、総合的なサポートというように考えている。

○質問項目が多いが、どの程度時間がかかるものか。

●私が実施して5～7分であるため、高齢の患者だともう少しかかると思われる。

○カルテを参照して情報を取ることに同意説明文書はあるか。

●同意説明文書「看護研究にご協力いただく患者様へ」の項目6に記載している。

○共同担当者については、もう少し増えそうであれば、最終的に出すときに追加で記載しておくよと思われる。

審議

○全員：承認